



赤色船底のタンカー  
(インターネット写真より)



神功皇后と船舶

発行所  
三石神社社務所  
神戸市兵庫区  
和田宮通3丁目2-51  
TEL (078)671-2531  
FAX (078)671-7667  
E-mail info@mitsuishi.or.jp  
URL https://www.mitsuishi.or.jp

○ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。  
○お伊勢さんのお神札（神宮大麻）と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。  
○お神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

三石神社 宮司 小林 友博

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととご同慶に存じます。又、年の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉献を賜り厚く御礼申し上げます。

当神社は三菱重工業(株)神戸造船所をはじめ多くの造船関係会社の崇敬・参拝があります。そこで祭神である神功皇后と船舶の関係の一端を述べたい。

船舶の中でも大半の大型船やタンカーの下部の船底は赤く塗られている。その理由は港などに停泊している間に、フジツボをはじめ種々の貝類や海藻が付着し航行速度を低下させ燃費の悪化を招く。それらの海生物の付着を防ぐため船底には赤い塗料が塗られる。

歴史的にも古代より船底付着の海生生物に悩まされた人々はさまざまな工夫と試行錯誤を繰り返した。古代のギリシャ人、フェニキア人たちの軍船の船底にはタールやワックスが塗られていたことが知られ、さらに古代ローマ時代は船底を鉛板で覆うという方法が用いられ、一部の海生生物の付着を防ぐ効果はあったが、鉛板重量が航行の足かせとなり、鉛板覆いはいつしか消えていった。十八世紀に入ってイギリス艦隊が船底に初めて銅板を張り付け（一七六一年）、従来の船と比べると速度数も勝ることが証明され、以後あらゆる船舶に銅板被覆が長く採用された。日本では独自の海生生物付着防止が考案された。明治二十（一八八七）年に漆を主体とした防汚機能を持った「介藻防止漆」が開発され日本海軍に採用されたが、漆が高価で大量生産出来なく消えていった。

第二次世界大戦後にフジツボなどの海生生物や海藻の付着に大きな効果を発揮する付着防止剤として亜酸

化銅を主とした船底塗料(Cu<sub>2</sub>O、AF塗料)が登場した。亜酸化銅が入った塗料を船底に塗っておくと、塗料が少しづつ海水に溶けて銅イオンを出し、海生生物や海藻付着を防ぐ効果がある。一九六〇年代には一時有機スズも登場したが毒性もあって海洋環境問題で廃され、現在は安全性の高い海生生物付着防止剤として亜酸化銅が最も多く使用されている。亜酸化銅の粉末は赤褐色である。船底を赤く塗装する理由は、先にも述べたが、海生生物や海藻の付着によって海水の抵抗が増して船速・スピードの低下を招くと共に、それにとまなう燃費効率をも防ぐ目的から、重要な役割となる亜酸化銅で船底を赤く塗装するのである。しかし亜酸化銅塗料も永久的でなく、溶けて効果がなくなるので、定期的にドック入りしメンテナンスしなければならぬ。

ところで、神功皇后は新羅征伐の際(二〇〇年)に、「御舟の裳」(船体外側の水に浸る部分)に「赤土」(赤色の顔料とする土)を塗ったと、『播磨国風土記』逸文(霊亀元(七二五)年頃成立とされる)の爾保都比売命の条に見える。その条を簡略すれば、皇后が出征の前途を祈願した時に、播磨国の国作りをした大神(伊弉諾・伊弉冉の神)の御子神である爾保都比売命が、播磨国造の石坂比売命に憑りついて「自分をよく祭ってくれるならば、靈験を示そう。赤土で塗った柁の木でつくった鉾を船の臚舳に立て、また船底と軍兵の衣も赤色に染めて出征すれば平らげることができる」と託宣したので、皇后は実行して渡り平定することが出来たとし、凱旋の後、爾保都比売命を紀伊国の管川の藤代の峯(和歌山県伊都郡高野町上筒香の藤白峯で、近郊の地質には赤鉄鉱も見られ、丹生都比売神社(和歌山県伊都郡かつらぎ町上天野に鎮座)の旧鎮座地とされる)に鎮め祭ったといい、皇后は赤土(鉄分を多く含んだ赤色の粘土)で船底を赤く塗ったことを知ることができる。この「逸文」により神功皇后と船舶との関係は明かである。

令和五年十一月

家内安全感謝と

今後共守護祈願参拝

四日、当社が地鎮祭を奉仕したH家夫妻の家内安全感謝と今後とも守護祈願参拝があった。

平成二十四年秋、西区狩場台一丁目で建築業者の依頼によりH家の地鎮祭を齎行したが、この度金婚式を迎えるに、地鎮祭でご神札を頂き家内にて奉齋しているが、今まで平穩無事に過ごせた感謝と、今後共御守護を願いたいと当社神前に祈願参拝したのである。

後日、「前略 ごめん下さい。今年で七十六歳となり、私達は結婚五十年の区切りになります。そこで気掛かりなことに向きあう機会となりました。その最終章が「三石神社」へのお礼参拝だったわけです。建築業者のご縁ではありましたが、三石大神様のご守護により未来に目を向けて進む勇気をいただきました。今では三石神社が私の「拠り所」となっています。どうぞこれからも三石神社の御守護により我家の増々の発展を心からお願ひします」とのハガキ

も頂戴した。

『御成敗式目』に、「神は人の敬いに依りて威を増し、人は神の徳に依りて運を添ふ」という格言があります。氏子崇敬者の皆様方も日々神社を崇敬し、H家様のように大神の家運ご隆昌のご神徳を頂いて下さい。

令和六年一月

年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭齋行



ご神前でのシマ唄奉納

正月三日、「氏子崇敬者繁栄祈願祭」を総代・氏子崇敬者十七名の参列のもと厳かに齋行し、今年一年の参列者各位はもとより、氏子崇敬者更に各事業所の安寧と繁栄を祈願した。

本年の神前奉納は、奄美・徳之島亀津出身で神戸市の小学校教諭中に



鳥居前での記念写真

故郷のサンシル（三味線）とシマ唄に魅せられ習い始め、教訓退職後は民謡保存会「ばしゃ山会」の会長に就任し後進の指導にあたりと共に、多くのイベントに出演、またシマ唄関係の著書も出版し、現在は関西シマ唄教室連合会会長、「ばしゃ山会」師匠の米川宗夫先生と、現在「ばしゃ山会」会長を務める岩出みどり先生のお二方である。

奉納唄は、シマ唄にはめでたい席で歌われる唄が少ないので、米川先生が作詞作曲したお祝いの酒がいただけることは目出度く、嬉しいとする「祝ぬ酒ぐわ」と、徳之島で歳の祝に唄われる「餅たばれい（ドンド

ン）節」の二曲で、どちらも非常にテンポよいリズムカルな唄で、つい手踊りしたくなるような雰囲気になせ、参列者も先生方の唄に微笑み、ご満悦であった。

式典後、参列者一同破魔矢を持ち、鳥居前にて記念写真を撮り、会館二階にて恒例の直会を執り行った。

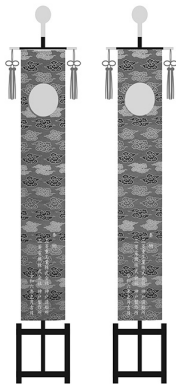
**「日月旗」奉納奉告式齋行**

三日、氏子崇敬者繁栄祈願祭に併せ「日月旗」奉納奉告式を齋行した。「日月旗」は、文武天皇大宝元年（七〇一）年の元日朝賀の儀式において幢幡（旗・杵）の一つ、「日像」（天・日、陽の儀）・「月像」（地・月の陰儀）として立てられ（『続日本紀』、それ以来神社でも天皇（皇室）の旗印である「日」を金糸で、「月」を銀糸で刺繍した「日月旗」を、真榊同様神殿を飾る不可欠の調度品として用いてきました。

当社拜殿で飾っていた「日月旗」（二対）は、昭和四十四（一九六九）年に御祭神一七〇〇年祭記念として氏子崇敬者二名（吉高一夫氏・大西小市氏）から奉納されたものであるが、既に五十年以上の年月が経過し

錦布の色褪せ・劣化なども進み、触ると布切れする状態となっており、更新新調の時期となっていた。そこで三菱重工神戸造船所・三菱電機神戸の両社に社名を金糸にて刺繍した「日月旗」（二対）の新規御奉納をご依頼した。ところが新奉納「日月旗」の納品が年末となるので、奉納年月日を「令和六年正月吉日」とさせていただきこの度の奉納奉告式となった。

当日は、奉納両社関係者は年末年始の休暇中であり参列をいただけなかったのは残念な事であったが、「日月旗」の清め祓いも齋行し、今後の両社の安全と繁栄を祝詞奏上した。



三菱重工神戸造船所・三菱電機神戸の両社から新規貢納された「日月旗」

**「兵庫津チャンネル」動画撮影**

二十四日十五時、兵庫津の認知活性化目的の歴史ある地域の神社・寺院

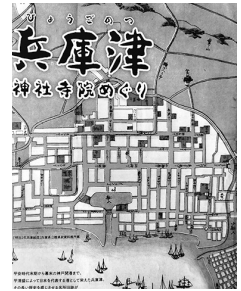


ユーチューブ「兵庫津チャンネル」撮影風景とユーチューブ



を紹介するユーチューブ「兵庫津チャンネル」の樽屋五兵衛（高田誠司氏）が来社し、宮司の説明する三石神社鎮座の三石由来と境内などが撮影された。是非、「三石神社で勝負運をつかめ」とタイトルされたユーチューブ「兵庫津チャンネル」をご覧ください。

尚、樽屋五兵衛が関係する兵庫津



パンフレット

連絡協議会は「兵庫津、神社寺院めぐり」パンフレットも発行しており、そのパンフの当社欄には写真三枚と、「三石神社の鎮座地である和田岬は神功皇后が凱旋の帰途上陸され、三つの石を立てて神占いをし、神々を其の地に祀らしめた儀式の地です。推古天皇がこの地に来て禊をされたので祓殿塚と言ひ、玉座とされた石を三石と言ひます。また一九二五(大正十四)年十一月より皇太子殿下ご安産祈念、安産お守り、腹帯を献上以後、皇后陛下・皇太子殿下の安産祈念お守り、腹帯を献上してあります」との記事が掲載されている。

令和六年五月

例大祭齋行

大祭前の四月二十日、吉岡・豊永両副会長他一名参列のもと、兵庫区切戸町六丁目の植田光君(二十四歳)の猿田彦決定奉告祭も齋行され、大



会館での神宝持ち記念写真

祭日の五月十七日(金曜日)、午後六時からの例祭には、区内神職二名のご助勤奉仕により、総代・氏子自治会長始め氏子崇敬者十七名の参列のもと、例年通り巫女による神前神楽も奉納し厳肅に齋行した。後、会館二階にて直会に入った。

十八日(土曜日)午前八時より、各地区お旅所の入魂修祓式を齋行し(諸事情により、本年の御旅所は北部南、東部の二箇所のみ)、午後一時半より、地区総代・氏子役員・自治会関係者の指導により、子供みこし三基(例年四基の子供みこしが巡行しているが、南部氏子会が奉仕者がいないということと本年も子供み

こしを出さなかった)が神輿唄を声高らかに唄いながら氏子町内を巡幸、午後三時半頃を以って無事終了した。例年通り事故の無きよう各子供みこしには自社雇のガードマン三名が付き、警備と交通整理にあたった(警察は巡回時に時々見るということで、子供みこし警備には付かなかった)。十九日(日曜日)の例大祭最大の神事である神幸式は、天気予報によれば午後から雨天となるため、早々に神幸式中止を決定した。

しかし、総代・猿田彦始め宮司太刀持・神宝持・お稚児さん等の少年少女には、会館にての写真撮影のため、装着着装時間に参集してもらい、奉仕集合記念写真を撮り、後日配布



令和六年神幸式(雨天中止) 会館でのお稚児さんなどの記念写真

した。

尚、本神輿昇は毎年吉田中学校生徒さんに奉仕していただいております。本年も四月十四日(日曜日)の氏子総会後に書面で奉仕依頼を行ったところ、五月二十一日の月・火曜日に中間テストがあり、学校側では十九日の日曜日の校外活動を中止しているのに、神社の祭奉仕依頼状を父兄に出すことが出来ない、本年の奉仕不可を理解願いたいとの連絡があり、四月二十一日の北部氏子会の総会に前記の事を話し、急遽氏子会から本神輿昇大人奉仕をお願いせざるを得なくなりました。ところが神幸式式日前で交代要員を入れて十人位の人数であったので、更に奉仕者集めに総代・自治会長さんらにご無理願っていた処、当日雨天中止となりました。

午後六時から、神幸式は中止であったが、会館二階にて例大祭奉仕の総代始め氏子三地区(南部地区なし)の人達又猿田彦会員達の出席による合同直会を開催した。

令和六年七月

夏越祭(夏祭り) 齋行



茅の輪くぐり神事

十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞鳴命の夏越祭は、疫病退散・無病息災祈願の祭であり、一人でも多くの氏子崇敬者の方々が無病息災で過ごしていただけるよう従来通り茅の輪くぐり神事を斎行した。

十七日午後六時からの殿内祭典には、総代・氏子崇敬者十三名参列のもと、宮司が大祓詞・祝詞奏上の後、フイ・オーナー・プアハラ・アロハ（フランダース教室）の山上菜穂・轟木真由美両先生のハワイアン（エ・イケ・イカナニ・アオ・ポリアフと、ポー・ハイケ・アロハ）二曲が神前奉納された（一般参詣者六名もハワイアンを殿内にて観賞した）。次に参列者代表各位が玉串奉奠した。

更に、境内に設けた「大茅の輪くぐり」神事では、宮司・禰宜に続き参列者一同が「蘇民将来、蘇民将来」と唱えつつ左・右・左とくぐり、人が知らず知らずのうちに犯した罪

や過ち、心身の穢れを祓い清め、また流行り病の無感染、夏の無病息災を祈願した後、二Fにての直会では神職手作りで無病息災のご利益ある「蘇民将来茅の輪守」をお渡しした。



神前でのハワイアン奉納

テレビ取材、放送など

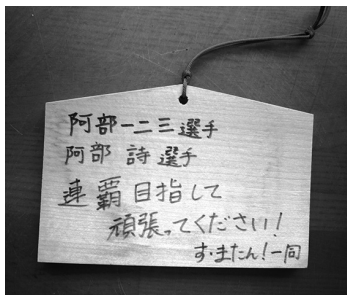
二十五日、読売テレビ放送報道局の「朝生ワイドす・またん!」「ZIP!」（10チャンネル）ディレクターら二名が来社し、パリオリニック柔道阿部兄妹関係の取材に来社、禰宜がインタビュ対応し、翌二十六日の五時五十分頃に放映された。また当日夕方にも放映された。

更に、毎日テレビ放送より、パリオリニックの阿倍兄妹の柔道テレビ放送を神主がテレビ前で応援している処を取材したいとの依頼があつ

たが、決勝戦は深夜の放送が予想されるので、この件は断った。尚、二十九日「朝生ワイドす・またん!」「ZIP!」ディレクターら二名が来社し、阿部一二三選手の二連覇と詩選手の二回戦敗退の取材があつた。



「朝生ワイドす・またん!」のテレビ放送場面



す・またん一同の奉納絵馬

また、九月二十九日には、ゲストの柔道・阿部一二三の人生を深掘りするトーク番組である、日本テレビ番組「おしゃれクリップ」の撮影取

材もあり、当社禰宜が応対した（放送は十一月十日22時予定）。



「おしゃれクリップ」の撮影取材

全国白バイ競技大会優勝祈願参拝

二日、殿内にて元白バイ隊員の岡田氏の肝煎りで全国白バイ安全運動競技大会優勝祈願祈禱を斎行した。

白バイ乗務員の運転技能の向上と、受傷事故の絶無を期すると共に、乗務員の士気の高揚と道路交通の安全維持に資するために、十二日から三日間、茨城県ひたちなか市で開催される第五四回の全国白バイ安全運動競技大会に出場する県警本部の交通機動隊の六名（男性四、女性二）の白バイ隊員が、監督引率のもと平服姿で参拝し、団体優勝並びに個人総合及び個人種目別の入賞に、監督である警部補の玉串拝礼に合わせ祈願した。

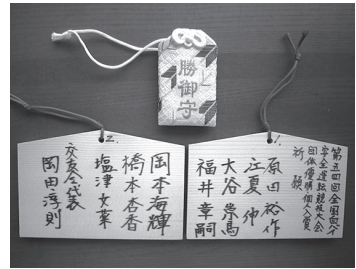
令和六年十月



表彰状を手にした  
記念写真

後日、結果報告に来社した岡田氏は、「皆、三石大神のご利益に感謝している」と話された。

大会当日、選手全員当社の「勝御守」を胸に入れ大会に臨んだところ、勝運ご利益を受け、団体競技の部で見事優勝し（二十六年ぶり）、個人競技男性の部では二名の入賞、女性の部では準優勝と入賞を果たし、また種目別競技である男性のトライアル走行操縦では優勝し、女性のパランス走行競技・傾斜走行操縦競技では各三位の成績であった。



白バイ隊員に授与された  
「勝御守」と「祈願絵馬」



古民家での個展

来場者は、前回（第二回・平成二十三年開催）の再来場者、また丁度丹波篠山の特産品である黒豆販売の解禁日とも重なり、観光客の来場も多数あった。ご高覧頂いた方々から、絶賛のお言葉を多く頂き、五日

権禰宜の絵画個展

五日より九日の間、丹波篠山市立町にある築二百年の古民家を再生したギャラリー「恵山」で、当社権禰宜（雅号・美鳳）の第五回となる個展が開催された。

今回は近年力を入れて製作している前衛書を中心にアクリル絵具を使用した抽象画と色紙等の小作品を合わせ約五十点が展示された。

間の個展を好評のうちに無事終える事が出来、美鳳も喜んでいた。

社殿屋根葺き替え事業・銅板

御寄進者ご芳名  
(含 申込・分納・追加、  
令和五年十一月から  
令和六年十月末日まで)

順不同・敬称略

銅板奉納者全ての方々のご芳名は、神社台帳に記録の上永く保存させていただきますが、境内掲示板のご芳名掲示は三枚以上とさせていただきます。



境内の奉賛芳名掲示板

ご寄進誠にありがとうございました。  
厚く御礼申し上げます。

趣意とお願い

現社殿は昭和三十八年に竣工して、約六十年となります。

銅板の寿命は約七、八十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。

そのような事情により、皆様様に銅板寄進（一枚三千元）をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げます。ご案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方には重ねてのご案内となりましたことをご了承下さい。

尚、はじめ銅板一枚二千元といたしておりましたが、銅の値上がりもあり、三千元（二、五枚と計上）とさせていただきます。宜しくご理解ご了承をお願い申し上げます。

新生児 命名

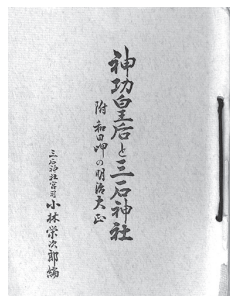
当社で命名に関係されたお子様のお健やかなご成長をご祈念申し上げます。（命名書のみのお受付も行っております。）

令和五年十一月から

令和六年十月末日まで

シリーズ

書籍に見る三石さん



境内の奉賛芳名揭示板

本書は昭和四十四（一九六九）年二月、当社前宮司小林栄次郎（故人）の著した小冊子で、「和田岬の明治大正」欄に、古き和田岬での事件、出来事も記されており、現在の人達にも知って頂きたいと思い、現代文に直し取り上げた。

○和田の三つ石

明治二十五、六年の頃、今出在家町に和田という家があり、和田の浜に三つの巨石があったのを、知らぬ間に持ち帰り、家の軒下に据えたのを知った附近の人達が、三石さんの石を、自分の家に勝手に持って帰って据えるとは、神さんのお怒りを知らぬばち当りや、ええことあらへんでと噂されたが、案のじようひっそくしたとのこと、その後和田家を買取った人が、造作するのに石が邪

魔になり、細く打碎いて栗石にしたそうで、その家も間もなくひっそくしたと伝えられている。実に惜しいことをしたものである。

この三つの石は、神功皇后さまが、和田岬に上陸され広田、生田、長田住吉の神々を、現在の所にお祀りになつた時の祭祀の趾と伝えられ、或は、平清盛福原遷都の頃（治承四（一一八〇）年）西宮戎神社、広田神社、南宮八幡の三社の神輿和田岬三石神社跡に神幸あり、三基の神輿を安置した石であるとも伝えられているのであります。西宮戎神社の徳川中期の社務日誌の中に、其の当時の神職が実地検分のため遙々和田岬に来て、三つ石の現存することを確かめたとの記録があるのであります。

○国鉄和田岬線

明治二十三年七月八日、山陽鉄道株式会社和田支線として開業され、その当時は駅もなく、兵庫駅の管理駅として発足、明治三十四年十二月一日、山陽鉄道株式会社が国有鉄道に併合されて、三石神社の鎮座地（今は閉鎖されたが三菱神戸造船所第二門附近）が和田岬駅新設の候補地となり、国に買取られ、現在の場所に

遷座されたのであります。現在の和田岬駅は、昭和の初年頃に新築移転したものであります。

和田岬線は、三菱神戸造船所、三菱電機製作所への朝夕の通勤者並びに、両三菱の製品、貨物輸送が主ですが、大正の末頃迄は、一般人の乗る旅客列車も日に数回運行され、兵庫へ出るのに便利な交通機関であったのです。

お知らせ

新年氏子崇敬者繁栄祈願祭

一、日時 令和七年一月三日

午前十一時齋行

一、会費 金 五、〇〇〇円（繁栄祈願祭特別会費）

（記念写真・直会（昼食会食）費代として当日ご持参下さい）

一、神前奉納 腹話術

全日本あすなる腹話術協会

本部長・腹話術師

福 小介先生

※参拝終了後、記念写真・直会（会食）を執り行いますので、ご参列ご希望の方は、十二月二十五日までにご参列のご回答をお願い申し

上げます。

※ご参列・直会ご出席の方は、飲酒運転防止の為お車でのご参加をご遠慮下さい。



三石神社諸祈禱ご案内

【殿内個人祈禱】

（殿内における各種祈禱）

家内安全、病氣平癒、安産、初宮詣、七五三詣、学業成就、厄除、交通安全、その他

【会社・事業所安全繁栄祈禱】

（会社・事業所団体祈禱は事前ご予約願います）

【出張祭典】

（諸準備の為、事前ご予約願います）

起工・地鎮祭、上棟式、竣工式、入居清祓式、神棚祭、各種安全祈願祭、その他（含 神葬祭）